

インターンシップ（学外実習）に関する報告書

令和元年度

沼津工業高等専門学校

初版 R01 年 11 月 20 日

目次

1. インターンシップの概要（実施数など）	3
2. インターンシップ情報の学内周知状況	4
3. インターンシップ事前研修	5
4. インターンシップ受入機関からのアンケート集計結果	5
5. 記述式質問 7, 8, 9 のまとめ （企業様から寄せられる問い合わせへの，学校の回答）	8
6. インターンシップ参加学生からのアンケート集計結果	11
7. 学生からの意見・感想	14
8. 3年生対象のインターンシップ説明会	18
9. インターンシップの総括	19
付録 1. 「インターンシップ説明会（インターンシップマッチング会）について	21
付録 2. 令和1年度（平成31年度）インターンシップスケジュール（予定）	22
付録 3. 学外実習生学生心得	23

1. インターンシップの概要（実施数など）

文科省によると、我が国のインターンシップとは、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」だとされている。そのうちのある条件を満たしたものを、沼津高専では「学外実習」という自由選択科目として単位化している。この文書は学外の方も読む可能性があることからインターンシップという用語を用いる。

図 1 に、平成 25 年度から令和元年度の間にあたる、沼津高専本科からインターンシップへの参加数を示す。M、E、D、S、C はそれぞれ、機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、制御情報工学科、物質工学科の 4 年生である。一度の実施は、受け入れ機関によって 1 週間だったり 2 週間だったりする。多くはないが、学生によっては 1 週間の実施を 2 回実施している。なお、平成 25 年度の「その他」は専攻科である。専攻科のインターンシップの実施期間は平成 25 年度までは本科と同様に夏休みの 1・2 週間であったが、平成 26 年度からは後期の 16 週間の実施に変更された。また、平成 28 年度の「その他」は 5 年生による実施である。

同じ図内に、学生係に届けられた学校公募の企業数も示す。学生の多くは学校公募のインターンシップに応募している。1 社が複数名を受け入れることがあるので、「受け入れ可能学生数」は更に大きな数である。更に加えて、学生によっては学内公募でない企業に応募することがある。それは例えば Web 上で見つけた一般公募や、特定の学科に向けて送られてきた学科応募である。学生は、行き先をえり好みしなければ、インターンシップの参加自体は容易に計画できる条件が整っている。

年度進行から全体的な傾向を見ると、平成 28 年度を除けば、実施数は年ごとに増え続けている。なお、学生に許された就職活動のルールは平成 26 年度までは特別な縛りはなかったが、平成 27 年度は「8 月から試験」、平成 28 年度からは「6 月から試験」という変革があったということも、募集数に影響を与えていると思われる。

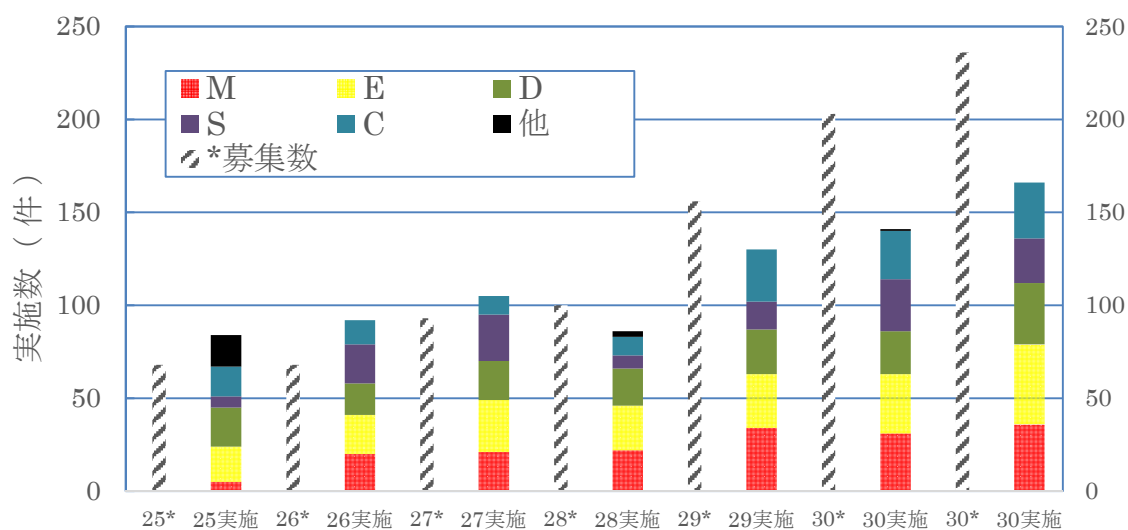


図 1 年度別実施数と募集数

2. インターンシップ情報の学内周知状況

インターンシップに関して、企業が募集してから依頼が届くまでの学内の状況をざっくりと示したのが図2である。図中の「学内サーバ Moodle」は、無料の e-Learning プラットフォームであり、学生や教員が情報共有のために活用している。Moodle 内に作られる各種情報の例を以下に示す：

- ・ インターンシップに関する規則
インターンシップに関する関係書類
- ・ 各年度のインターンシップ募集企業（今年度分も含む）
- ・ 各年度の実施実績（今年度分が掲載されるのは夏休み明け）
- ・ 報告書（基本的に毎年作られる）
- ・ 学生アンケート打ち込み画面と、各年度の集計
- ・ など

沼津高専で一般的なインターンシップの情報は、学生係宛に送られる募集要項である。その情報は学内サーバに格納され、4月早々から学生はその情報を閲覧できる。学生は担任と相談しながら好みの会社を選び、履歴書を作るなどの事務手続きも進めてインターンシップに応募する。

インターンシップの学生指導を担当するのはそのクラス担任である。第四学年の担任は毎年顔ぶれが変わるため、毎年、始業式が始まる前に、特に事務手続きやなどの学生指導の進め方などの再確認のためインターンシップ指導者の打ち合わせ会を実施し、間違いのない指導に努めている。（2017年度は2017年3月28日、2018年度は2018年4月5日）。

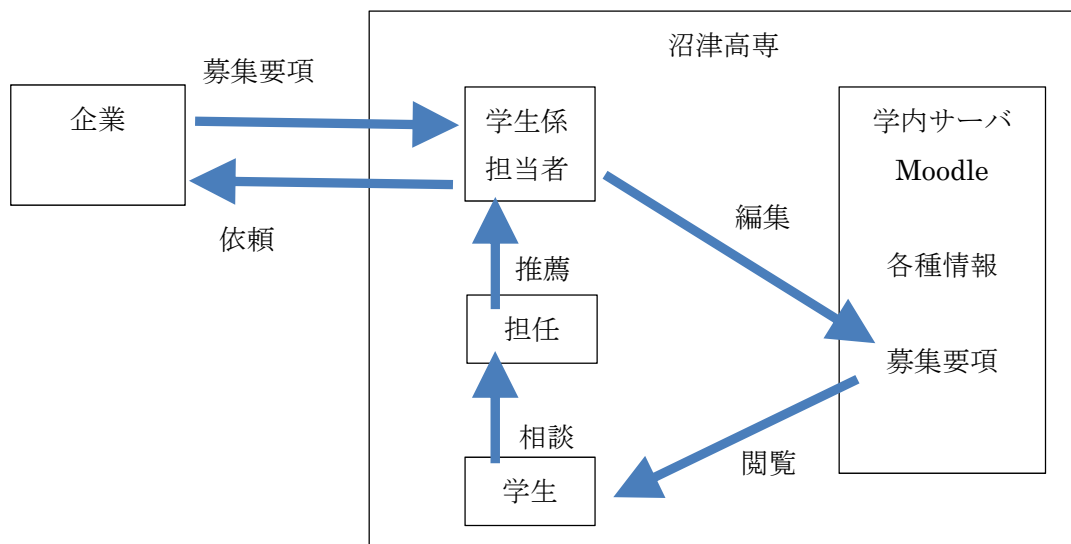


図2 募集の情報の学内伝達

3. インターンシップ事前研修

インターンシップへ参加が決定した学生および、参加を希望する全学生に対して、下記要領で夏休み前にインターンシップ事前研修会を行っている：

1) 日時：2019年7月17日（水） 13：05～14：25

2) 場所：視聴覚教室

3) 内容：

13：05 研修会に参加するにあたって（インターンシップ担当教員）

13：10 諸注意（主事）

13：10 ガイダンス（インターンシップ担当教員）

13：50 質疑・応答

14：10 終了

4) 配布物：なし

上記3)の内容を以下にまとめる。

<研修会に参加するにあたって>

インターンシップは、進路を決める重要なイベントの一つである。重要な話がたくさんあるので、聞き漏らしの無いように、集中して話を聞くこと。

<諸注意>

今日の参加者は、そのほとんどが就職希望者である。将来のために会社での仕事を体験するのは、ミスマッチを防ぐためにも大切なこと。インターンシップへは、沼津高専の代表として参加することを忘れない。挨拶や服装、態度や行動に注意し、学生らしく振る舞う。勝手な行動は慎む。来年度の就職につなげて欲しい。

<ガイダンス>

- ① 知的財産を守る
- ② 企業アンケートの紹介
- ③ インターンシップ実施までにやるべき事
- ④ 参加時の持ち物
- ⑤ インターンシップ参加までの受入機関との連絡における注意事項
- ⑥ インターンシップ参加時の注意事項
- ⑦ ビジネスマナー、挨拶の仕方
- ⑧ その他の心構え

4. インターンシップ受入機関からのアンケート集計結果

例年、本校インターンシップを受け入れて下さった機関に対し、下記のアンケートをお願いしている。この章では、その結果と注目点をまとめる。

沼津高専のインターンシップに関するアンケート回答用紙

貴社名 _____ 所属部署名 _____

記入者名 _____ E-mail _____

質問1. 記入者の方は、インターンシップにはどのように関わりましたか？
 →1.人事課系（主に手続きや企画を担当）、2.現場系（主に学生の直接指導を担当）

（5 択で回答）

質問2. 本校から参加した学生は、実習に積極的でしたか？（複数名参加の場合は平均値）
 →1.非常に積極的、2.積極的、3.普通、4.消極的、5.非常に消極的

質問3. 本校から参加した学生の能力は、高いと感じましたか？
 →1.非常に高い、2.高い、3.普通、4.低い、5.非常に低い

質問4. もし来年度も、本校の学生が御社を希望した場合、受け入れて頂けますか？
 →1.ぜひに、2.希望があれば、3.検討したい、4.難しい、5.遠慮したい

質問5. 学校側の、インターンシップに関する対応はどう感じますか？
 →1.非常に丁寧、2.満足、3.普通、4.不十分、5.改善を希望

質問6. インターンシップの企業としてのメリットは感じますか？
 →1.大いにある、2.多少ある、3.学生による、4.あまりない、5.全くない

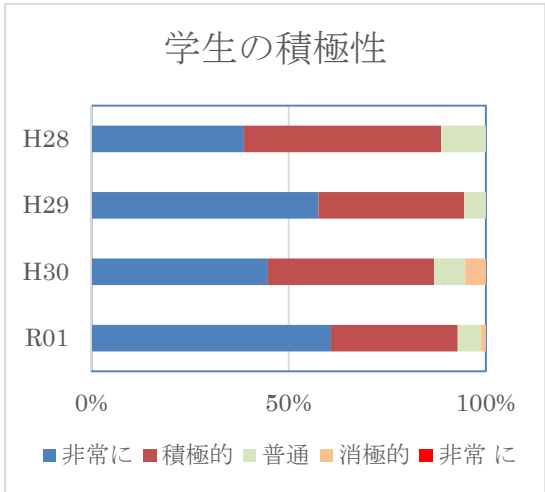
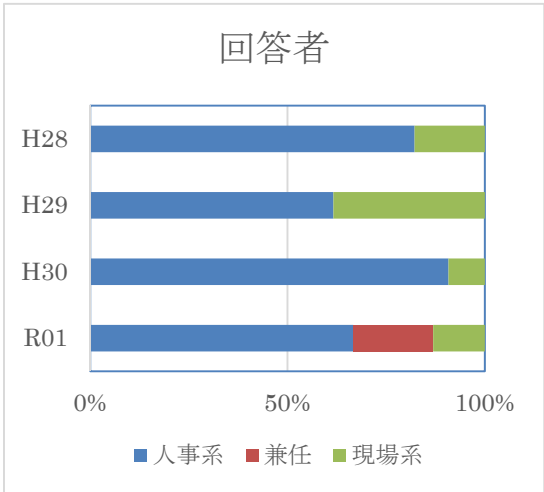
（以下文章形式）

質問7. 今後、インターンシップに参加する学生に伝えたい事があれば、お書き下さい。

質問8. インターンシップ実施に関して、ご要望・ご質問がございましたらお書き下さい。

質問9. その他何かございましたら、ご自由にお書き下さい。

ご協力いただきありがとうございます。
 お手数ですが、E-mail または、FAX にてご返送いただけると幸いです。



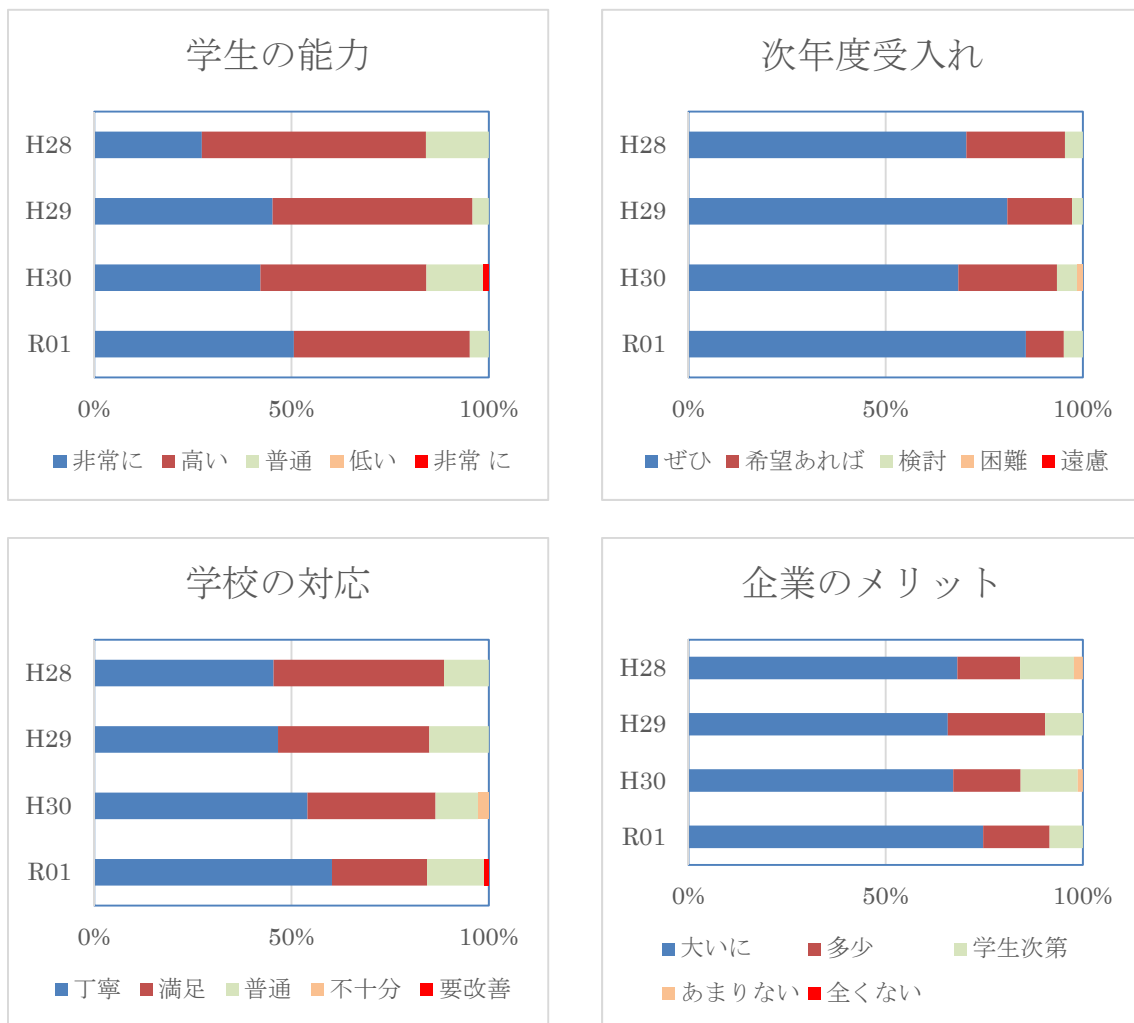


図3 企業から回答を頂いた、インターンシップのアンケート

これらのデータより分ることを以下に述べる。

- (1) 全般的には企業から好意的に受け入れられていると思われる。
その一方で、一部のインターンシップに厳しい評価があったことには注意が必要である。
- (2) 厳しい評価の一つは、学生のやる気や能力に「普通」「消極的」とした回答である。特に、「消極的」とする1件については注意が必要である。
- (3) また、学校の対応について1件の「不十分」を受け取るようになった。
これは、4年生の担任を初めて体験する教員の対応に対するご意見であった。
これについては、年度初めの担当者打合せ会議の内容を充実させることと、そういった教員が担当したときの支援体制を整えることによって改善を図ります。

5. 記述式質問 7, 8, 9 のまとめ

企業に回答を頂いたアンケートのうちの3項目は、記述式である。それらのうちで、同様なものについては複数回の記述を避け、似た項目ごとに分けて表にした。

なお、質問7は「インターンシップに参加する学生に伝えたいこと」、質問8は「インターンシップ実施に関して、要望・質問は?」、質問9は「その他なにかありましたら」であった。質問9の内容は基本的に学校に向けたものが多かったので、基本的には質問8に併せた。また、学校からの回答が必要なものは独立してまとめた。

企業様から寄せられる問い合わせへの学校の回答

なお、今年度からは、質問と回答だけは別の資料にまとめることにした。資料のタイトルは、「本科インターンシップ（学外実習）に関して企業からよく尋ねられる質問への回答」であり。

例年、インターンシップの報告書に、その年度の質問と、それに対する回答をまとめてきたが、同様の質問が繰り返されるのが実情である。繰り返して同じ質問が上がってくる理由の一つは、「学校が回答していることが、企業側に伝わっていないから」だと思われる。そこで、今年度は分かりやすいタイトルの別ファイルを作成することにした。

質問7. インターンシップに参加する学生に伝えたいことは?

姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・モノを作ること、サービスを提供することは、すべて相手がいてこそ成立します。日々の業務は淡々とした作業になりがちですが、その向こう側にはお客様が必ずいらっしゃいます。仕事の向こう側で人に喜んでもらえることを目指してゆくことを、忘れないでください。 ・元気で協力的かつ主体的であることが大切です ・チームワークを大切にす ・将来を見据え、日々目標を持ち集中して学ぶ ・積極的な参加を ・積極的な質問を ・休憩時間には社員と積極的にコミュニケーションをとって欲しい。 ・覇気がなく、少し心配な気がしました。元気な挨拶やバイタリティーはエンジニアとしてのベースになります。 ・受身の学生が多いです。折角のインターンシップなのだから積極的に ・受け入れ側としては念入りに準備をしています。最低限のマナーを守って臨んで頂くことを希望します。(些細なことですが、感謝の言葉はとても嬉しいです。しっかりした学生でした)
学習項目	<ul style="list-style-type: none"> ・折角のインターンシップなのだから、最大限利用するつもりで好奇心を持って参加し、学んだことや感じたことを自分の言葉で語れるようにまとめましょう。 ・学力・理解力はあると思うので、それ以外の面（礼儀、姿勢）を意識して学んで欲しい。 ・目的意識を明確にすると、有意義なものになると思います ・インターンシップは学生時代に企業活動について知れる数少ない機会です。 ・インターンシップでは、会社のこと、また、企業で働くということを知ってください。

将来	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップで学ぶ内容は業務の一部に過ぎません。今後も色々なことを学び、経験し、立派なエンジニアに成長されることを期待しています。 ・インターンシップの経験が今後の進路選択に役立つと幸いです。 ・自身の興味あるいは後学のために弊社のインターンシップをご活用ください。 ・インターンシップは、社会に出て仕事をするとはどのような事かを、体験的に知る貴重な機会と考えています。就職、進学に関わらず、積極的に参加していただければ、実施企業にとっても有りがたいです。 ・実際の職場を経験することは、今後のキャリアを考える上で、とても重要なことであると認識しています。インターンシップは、思い描いたものと現実とのズレをすり合わせ、あやふやな未来を少しでも確かなものにする良い機会です。是非、この制度を活用し、自分の将来をじっくりと考えてみてください。 ・インターンシップは、必ず参加していただきたい。就職前の実社会での貴重な経験となります。
選定と受入	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味が持てる会社（製品・内容）があれば積極的にその会社のインターンシップに参加してください。 ・当社は材料系の会社ですが、材料以外にも高専生に興味持てそうな事業がたくさんありますので是非ご参加ください。 ・沼津から遠方になりますが、食事や宿泊を提供いたしますので、安心してご参加ください。 ・モノづくりが好きな機械系および電気系の学生さんに是非ご参加いただきたいと思っています。 ・弊社のインターンシップは幅広い事業の体験ができますので是非お越しください。 ・弊社のことだけでなく、業界のことや、社会人と学生の違い、また、就職と進学に関するアドバイス等も行っておりますので、是非積極的にご参加ください。 ・弊社の製造部門の品質管理を体験していただきたい。 ・弊社のインターンシップは、職種別の専門スキル以上に、チームとしてイノベティブに仕事に取り組める価値観を大切にできる学生になって欲しい、そしてそのような学生と出会いたいと考えています。 ・弊社のインターンシップは学生同士でチームを組んで制作するという形を取りました。グループワークに興味ある学生は是非（伸ばしたい、克服したいのどちらでも） ・弊社のサービスエンジニアは機械と人の両方に関わる仕事です。専攻が電気・機械でなくても機械と人が好きであれば力を発揮することができますので、積極的にご参加ください。 ・前向きな学生様のご推薦を頂き感謝いたします。 ・弊社は大企業ではありませんが、社員一人ひとりが自分で考えて行動する若手の多い会社です。少しでも興味があればぜひ参加ください。 ・進学希望の方や進学かどうか迷っている方には、大学のインターンシップによって大学の教育研究・設備・雰囲気を感じてみてください（大学より）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・高専での研究に今回の体験を生かしてください。 ・学校で勉強していることが会社（社会）でどのように応用されて仕事に活用されているかどうか分かったら、学校での勉強のモチベーションにもつながります。

質問 8. インターンシップ実施に関して要望・質問は？(含 質問 9. その他なにかありましたら.)

	特に回答不要と思われる事項
満足?	有難うございます
歓迎	次年度も実施いたします 電気系の会社ですが、機械系の学生も歓迎します。
要項作り	初めてのことでカリキュラム中の見学が多くなりすぎたようです。次回はインターンシップならではのカリキュラムにて学生をお迎えしたいと考えます。

※ 回答が必要と思われることについてはこの表でなく、次の表に回答とともに記します。

以下の質問については、毎年の質問が予想されるため、ファイル「本科インターンシップ(学外実習)に関して企業からよく尋ねられる質問への回答」に回答をまとめました。

別資料になりますが、ご確認をお願いいたします。

例年質問がある、回答が必要と思われる事項ご要望・ご質問

要望・質問	
3.	インターンシップの年間予定
(2)	インターンシップは夏休みだけでしょうか
(3)	夏休みの日付はいつからいつまでですか
4.	インターンシップ情報の学内周知状況
(2)	要項作りに向けてご要望はありますか？(学生の費用は?)
(3)	募集要項を送るのはいつ頃が良いでしょうか?
(4)	実施期間が5日間というのは短いと思うのですが?
(5)	事前に学生の能力や状況や希望を把握できれば、実施内容を微調整できるのですが
(6)	できれば就職を検討する学生に来て欲しいのですが
(7)	受入れ企業が学生受入れにどれだけ労力をかけるか学生は知っていますか
5.	インターンシップ参加状況(学生数と企業数)
6.	インターンシップ事前研修
7.	インターンシップ受入機関からのアンケート集計結果
(2)	事前に何を学びたいのかの情報をいただくと助かります
8.	インターンシップ参加学生からのアンケート集計結果
(2)	実習後の学生の意見を聞きたいのですが
9.	その他質問
(1)	これからもよろしくお願いします
(2)	教員に来訪頂き有難うございます
(3)	事後提出用証明書の用紙の入手方法を改善して欲しい
(4)	企業担当者は、事前に学生と直接連絡できますか?
(5)	(インターンシップに関して)学生へのアピールの機会がありますか?
(6)	事務局との連携をもう少し密にしたいです
(7)	どうすれば就職先に選ばれるでしょう?
(8)	今年度のインターンシップが終わりましたので、学校にご挨拶に行きたいのですが?
(9)	専攻科学生にも1, 2週間実施のインターンシップに来て欲しい

今年度は、アンケートの中に、教員に対して「訪問の際は、事前に打合せをした時間を厳守してほしい」との記載があった。

担当教員は、教員経験も浅く、インターンシップ指導も初めて担った者であった。この件

は、ミスを犯したのは一教員であるが、インターンシップに責任を持つ COOP 教育委員会にも責任のあることでした。まずは深くお詫び申し上げます。

今後は、年度初めの担当者打合せ会議の内容を充実させることと、そういった教員が担当したときの支援体制を整えることによって改善を図りたい。

6. インターンシップ参加学生からのアンケート集計結果

例年、インターンシップに参加した本校学生に対してアンケートを実施している。質問によっては微調整しているものの、基本的なところは同じ内容を継続している。これによって学生の意識調査および参加の実体を把握し、次年度以降の実施の参考としている。

令和元年度のインターンシップ学生用アンケート（集計項目）

(1) 主な実施内容 ※

①見学, ②研修, ③実技, ④その他

(2) 期間中の宿泊場所

①自宅, ②下宿, ③社員寮, ④ホテル, ⑤その他

(3) 通勤方法

①徒歩, ②自転車, ③電車・バス

(4) 通勤時間

①30 分以内, ②1 時間以内, ③90 分以内, ④それ以上

(5) 受入企業でのまとめ

①プレゼン, ②報告書, ③面談, ④なし

(6) 参加した主な目的 ※

①単位取得, ②能力向上, ③就労体験, ④適性探索, ⑤その他

(7) 不足していたと感じる事前準備 ※

①安全・知的財産, ②企業研究, ③能力・姿勢, ⑤マナー, ⑥プレゼン能力,

⑦技能, ⑧その他, ⑨不要

(8) 自分の能力が向上した？

①はい, ②いいえ, ③どちらともいえない

(9) 自らの適性がわかった？

①はい, ②いいえ, ③どちらともいえない

(10) 事前と事後の希望先（平成元年度からの質問）

事前は就職希望 ① 事後も就職希望, ② 後は未定, ③ 後は進学希望,

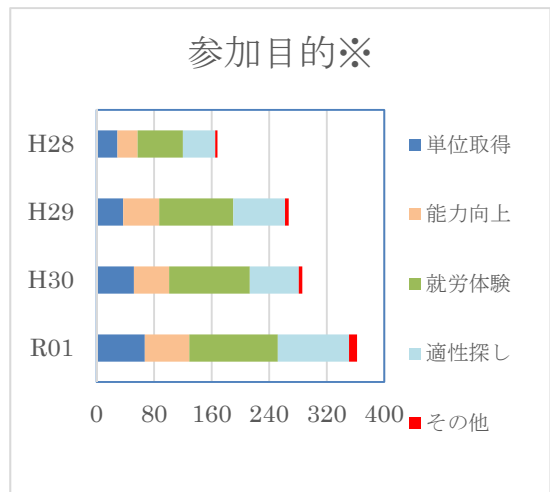
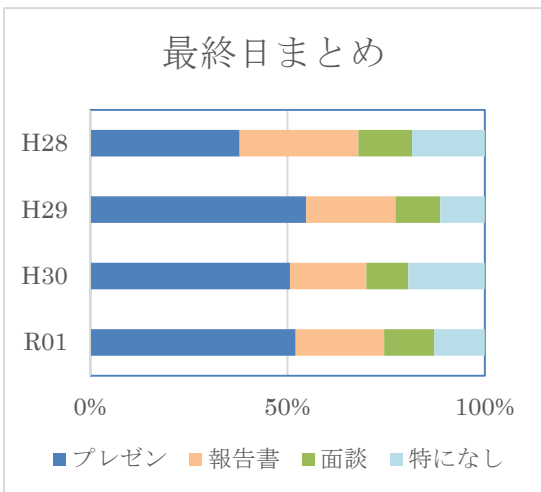
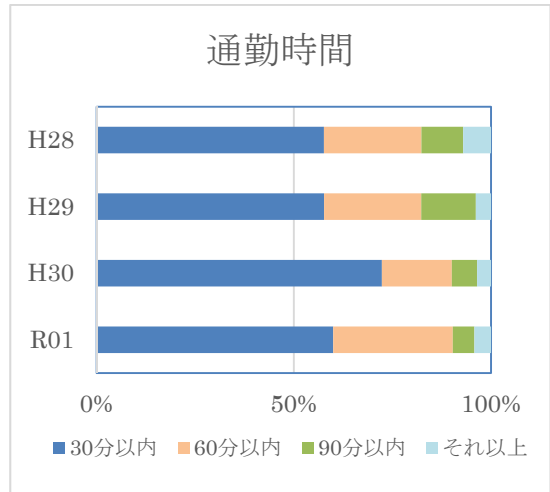
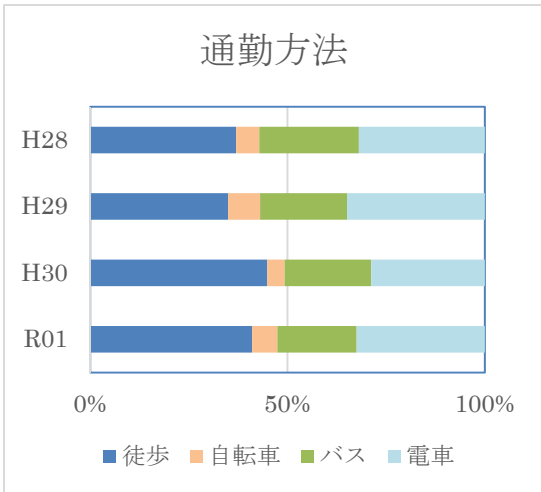
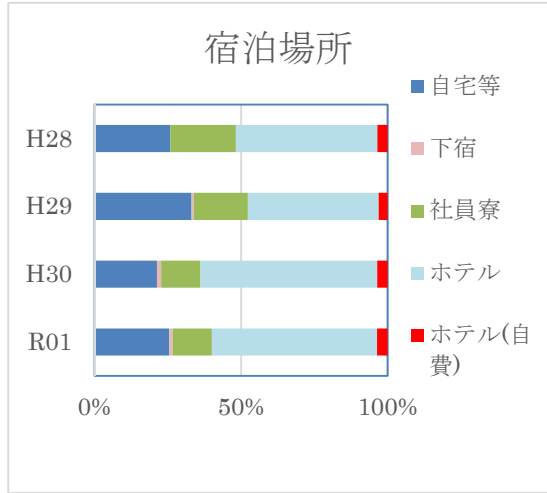
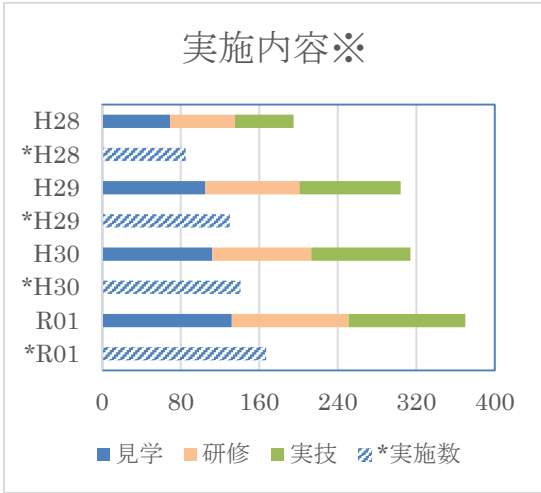
事前は進学希望 ④ 事後は就職希望, ⑤ 後は未定, ⑥ 後も進学希望,

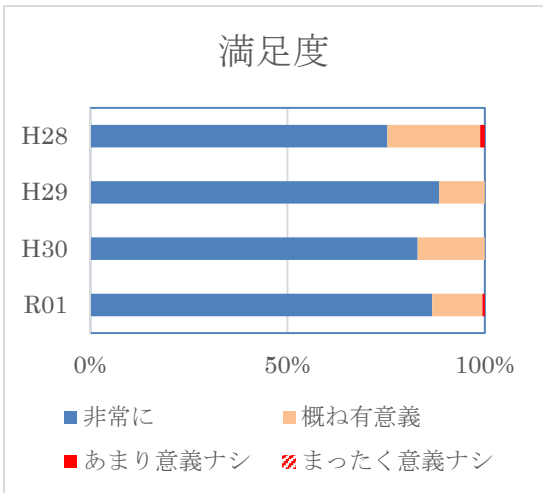
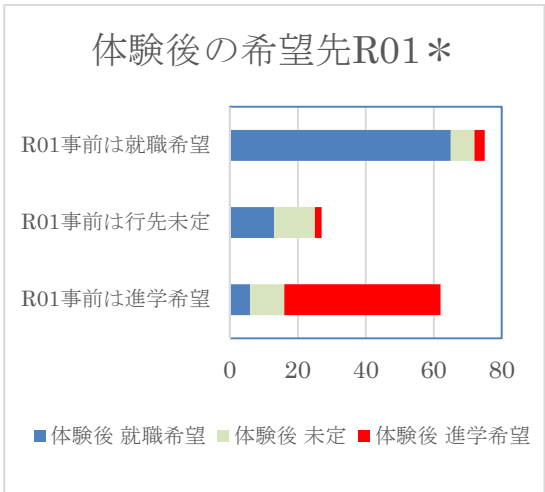
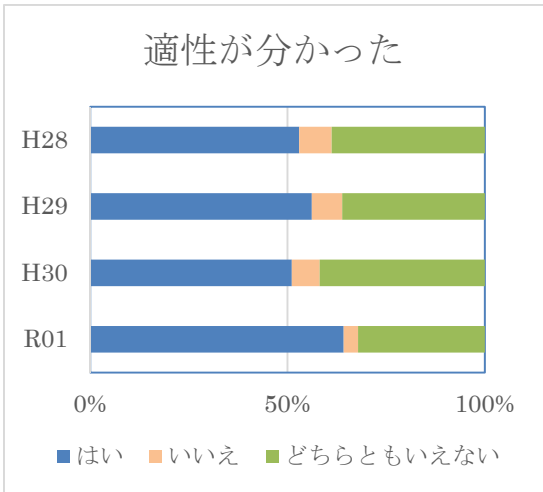
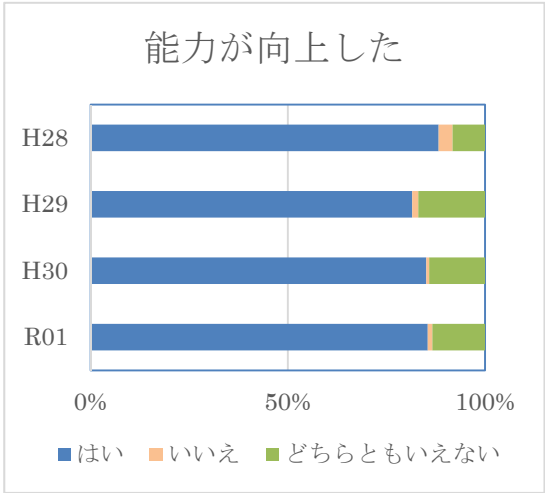
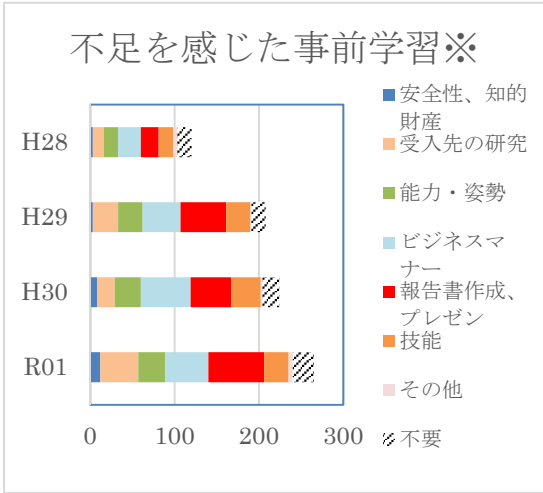
事前は進路未定 ⑦ 事後は就職希望, ⑧ 後も未定, ⑨ 後は進学希望

(11) 満足度

①非常に有意義, ②概ね有意義, ③あまり有意義なし, ④全く有意義なし

※印つきのタイトルは複数回答であるため、横軸を人数とし、そうでないタイトルは一択なので横軸を比率とした。





(1) 実施内容概要（良いところ）

最後の項目である「満足度」は、例年通りほとんどが「非常に有意義」または「概ね有意義」という回答のみであり、学生は素晴らしい体験ができたと言える。また、学生はインターンシップを通して、まず殆どの学生が「就労体験」を目的とし、多くの学生は「能力が向上」したという成果を頂いている。

これらは、学生が素晴らしい体験ができているということであり、学生や積極的なかわりを持ったものと思われるし、受け入れ機関の方々や学内担当者のご尽力があったからである。インターンシップを支えて下さった皆様に深く感謝いたします。

(2) 実施内容概要（気になるところ）

ただし、気になるところがいくつか見られる。

まず、「不足を感じた事前学習」については、毎年のように同じアンケート結果を得ているので、毎年の事前研修で学生に伝えている。しかし、それが繰り返されている。これは更に強く学生に伝えることが必要である。

続いて、「満足度」に「あまり意義ナシ」との回答が1件あったことである。ただし、それは1名の学生で2社のインターンシップに行った学生による回答であり、その学生にとってもう1社についてはそうではない回答が得られているので、その学生自身はインターンシップ全体に対して「満足した」と考えてよいと思われる。

(3) 進路希望の、事前・事後

インターンシップの事前と事後で、進路に対して意識が変わったかどうか、今年度初めてアンケート項目を入れた。

それによると、事前に就職希望の学生は、事後もほとんどが就職希望のままだし、事前に進学希望の学生も、事後はほとんどが進学希望のままであることが分かった。

しかし1割～2割の参加者は、未定への変更や、就職と進学の変更があった。この「変更した学生」は、企業に向けた最初の体験であるインターンシップにより、就職と進学のミスマッチが判明した。彼らはインターンシップの恩恵を最も強く受けた者だと思われる。これがもしも「就職した後で判明」だとしたら、取り返すことは大変である。

また、もともと未定だった学生の約半分は、就職か進学を目指すことに決めた。これもインターンシップの恩恵である。

7. 学生からの意見・感想

参加学生からのアンケートに、インターンシップに対する要望や実施して気付いたこと、感想などを自由に書いてもらった。以下に、その主な回答をまとめる。必要な対応を取りながら、改善につなげたい。

1. 研修中の感想を入力(驚いたこと、印象的だったこと、新発見などを含め)

技術	<ul style="list-style-type: none"> - 学校で習っていることが実際に活かしていること。製品に対する妥協のない姿勢 - 高専で学んだ知識が不要であること - 実験では得られない経験(トラブルシューティングなど)があり、自分のスキル向上につながった。 - 意外なところで手仕事があった - 基礎の大切さに気付かされた。 - 大学院生が半数を占めていたが能力面では高専卒でも十分だったこと - 少人数の工場であることは予想していたが、家族3人での営業であったこと。また、それでいながら最先端の技術を開発しているところ。 - 機械・電気・制御の分野の方が一つになってプロジェクトを進めていた事。
知識	<ul style="list-style-type: none"> - 実際に作ってみて、作り方に関する興味が深まった - 同じ会社の中でもいろんな種類の業務があることがよく分かった。 - 食品工場で様々な技術が求められる理由を知ることができた。 - 自分の知らないことをたくさん知ることができた。 - 会社が学校とどう違うかわかった。会社のイメージが大きく変わった。 - 1つの分野のみならず、幅広い知識が必要であること。 - 予想以上に自分はプレゼンが苦手なことに気づいた。 - 就職してからも勉強が大切なことそれぞれに責任があることを実感しました。 - 1つの工程ごとに必ず検査が入っていて驚きました。 - 業界用語がたくさん使われていて知らない会話についていけなかった。 - 様々な分野の実習を受けて、実力が足りないと思った。 - 技術営業とは何かを学び、国内のみならず海外にも出張が多いと知った - 専門外も学ぶべきだと気づいた - 設計者は自分が思っているより仕事が忙しいこと
安全管理や働き方	<ul style="list-style-type: none"> - 思っていたよりもきちんと休憩を取っていること - 学校とは違う企業の視点は非常に勉強になった - 高専卒だとエンジニアとしてしか会社は採用してくれないと今まで思っていたが、希望すればエンジニア以外の職種につけることを知ることができた。 - 働くことはやはり大変だということ。 - 他部署同士でも意外にも交流がある。何よりも安全第一。 - 自分から学ぶ姿勢が大事
英語	<ul style="list-style-type: none"> - 改めて英語でのコミュニケーションの大切さを知れた
他	<ul style="list-style-type: none"> - 自分の将来を決める指針となった - 実際に職場で働くことにより職場のイメージが固まった。 - 自分に適性があった企業を見つけることができ、大変嬉しかった - 高専卒の先輩方が多く驚いた。 - 他高専の人や社員さんと仲良くなれてよかった - 整備の重要性がとてもよくわかった。繊細で神経のいる作業である - 実際に働いている人たちの作業現場を見学することができ、フィールドエンジニアの役割をほんの僅かだと思いましたが知ることができました。 - 人事部の方からもお話を頂くことができ、とても有意義であった - 大学では最先端に触れることができ、最前線に立てる

2. 研修中に困ったことを入力

生活	<ul style="list-style-type: none"> - 開始3日前まで交通手段や泊まる場所がわからなかった - 通うための早起き - 早番体験で、5時出勤が大変だった - 電車の混雑 - 革靴（パンプス）に履きなれておらず、歩くのにもものすごく疲れたこと - 実際の現場なので、担当者の方が突然のトラブルなどで外れることがままあり、その時の対応に困った。 - 大きな荷物を持っていたためインターンシップ先までの移動中、乗り換えが遅れ予定通りに行けなかったが、予定に余裕を持たせていたので集合に間に合った。 - 腕時計を持っていけばよかった - 寝具が合わず、睡眠がしっかり取れなかった - 学内宿泊施設（クラブハウス）にて、雨の日に洗濯物が乾きにくかった。 - 雨具の用意が必要であった。 - 体調不良になってしまったこと。 - ホテルの立地が悪く、食事に困った。 - 夕食がついていないので、毎日外食することになりお金が足りなくなった。
マナー 連絡 相談 プレゼン	<ul style="list-style-type: none"> - 敬語が上手く使えませんでした。 - ビジネスマナー - 名前がなかなか覚えられない - 質問するタイミングを窺うのに苦労した - いつも通りの言葉使いが出そうになってしまったこと - インターンシップ先の社員さんがとても面白かったが、どこまでこっちが砕けて話をすれば良いか分からなかった - 社員の方とのすれ違いの時、なんて挨拶したら良いか分からない時があった。 - 企業からの要項に「指定はしないが、学生らしい服装で参加」という指定でインターンに行きました。先生とも相談して襟付きの私服で参加しましたが、他の参加者の中にはスーツで参加している人が多かった。服装の判断はとても迷った。 - プログラムがうまく動作しなかったこと
技術	<ul style="list-style-type: none"> - 短い時間でプレゼンを作るのが大変だった。 - 報告書を作成する時間がほとんどなかった - 初体験で画像測定機の使い方が分からず、困りました。（すぐに質問したところ優しく丁寧に指導して頂けたので助かりました。） - 久しぶりのホールピペットで緊張した - コーディング知識やデバッグ知識がなくて作業が遅れた - 高専にきてなにもスキルを取得していない自分に困った。環境に流されて遊び呆けるのもいいが、なにか1つくらいスキルを身に付けるべきだと思った。
他	<ul style="list-style-type: none"> - 特になし - 工場内を見学するだけでもかなり暑いこと - 最初はインターンシップで学びたいことをはっきりとは考えておらず、質問する内容が思いつかなかったこと - 私服通勤を許可されていたが、明確なラインが分かりづらかったこと。 - 専門用語などを覚えるのに苦労した。 - 人間関係で孤立した - 事前の準備や調査が足りず、初めのほうは余裕がなくて大変だった

3. 学校への意見、要望、現在の気持ちなど自由に入力

参加	<ul style="list-style-type: none"> - インターンに参加して無駄になることはない - 夏季休暇中の予定がない人は進学希望でも参加すべき - 先生や学生課のお陰で、他の大学生よりインターンに参加しやすいと感じる。
支援	<ul style="list-style-type: none"> - 日誌などの資料をプリント化して配って欲しい - 一緒にインターンを受ける学生を知らせてほしい - 事前に服装について色々教えて欲しかった。 - もっと前から企業と接する機会をしっかりと作って欲しい - 必要な書類についてももう少し詳しく、しつこくアナウンスしてほしい。 - インターンで必要な書類を目につくところに書いて欲しかった。 - 企業の情報をもう少し早く連絡してほしい - 「インターンシップ募集企業」ページの募集企業欄の横に、過去にその企業のインターンシップに参加された先輩方の感想を書いていただけるとインターンシップ選考の参考になると感じます。
学習	<ul style="list-style-type: none"> - インターンシップの前に心得のテストなどを受けて行ってよかった。 - 学校で習った基礎的な実験を行うスキルは工場でも役に立つ。 - メール等の講義が必要だと思います - 事前研究を徹底するように、指導すべき。
反省	<ul style="list-style-type: none"> - 事前研修の問題が現場で大変役に立ったので助かった。ビジネスマナーの項目をもっとよく読んでおけばよかった。
総括	<ul style="list-style-type: none"> - とても有意義だったと感じた - インターンシップの体験によりモチベーションの向上に繋がりました - 現場を見ることで自分の抱えていた疑問を解決できた、良い体験だった。 - 将来自分のつきたい仕事はどのようなものかを知る有意義な体験が出来た。 - 就職がしたくなった。社会を支える仕事に就きたい。 - まだ社会に出るのは早いのかと思った。 - 今までは進学希望でしたが、インターンシップを通して就職するメリットをたくさん知ったので、進路を考え直そうと思いました。 - 改めて学業の大切さを知りました。
感謝	<ul style="list-style-type: none"> - 行って良かったです。 - インターンシップの手続きをしていただきありがとうございます。 - 学生課の人にとってもたすけてもらいました。ありがとうございます。 - インターン先で困らないための予めサポートが良かった - moodle のデータが実際に役に立ったのを体験し、助かった。
他	<ul style="list-style-type: none"> - 特に無し - Suica を持っていてよかった。持っていない人は切符を買って他を待たせる。 - 夏休み前にテストをしてほしい - 夏休み短くて困ります - 少し迷っています - お礼状の書き方などをもっと事前に知りたかった - 研修後、他高専生はお礼状を書いているようだった。お礼状の書き方を事前に教えた方が良かったかもしれません。 - 必要書類や提出先などをちゃんとわかるようにしてほしい - 受け入れ先の担当者の方がインターンシップの細部に関して聞いていないという部分があったので、可能な限り学校側から受け入れ先にお問い合わせすることは説明しておいてくれるとありがたいと感じた。 - 企業側の必要とする知識、能力の教育が実験、実習を行う際、いかに大切かが学生側が理解できていないように思う。

4. 受入機関への意見、要望、現在の気持ちなど自由に入力

感謝	<ul style="list-style-type: none"> - ありがとうございました。 - 満足しました。 - 参加して本当によかったです - 忙しい中、とても親切に対応してくださったおかげで、特に不自由することなくインターンシップに取り組むことができました。ありがとうございました。 - どの社員さんも優しく面白い人ばかりだった。宿泊料金や、昼食を会社が負担してくれるのはとても有り難いと感じた。 - 小さな疑問からの質問にも丁寧に答えて頂きました。実習中に得た知識は大切にしていきたいと思います。 - 実際に働いている最中でも、こちらの質問に丁寧に答えて下さりとても参考になることを聞くことが出来た。 - 参加したことによってメンテナンス業への知識が深まった
利点	<ul style="list-style-type: none"> - インターンシップで全国の高専生と知り合えて良かった。 - 自分の方向性などがだいぶ見えてきました。 - 東京で代表として発表させていただき、ありがとうございました。自分が成長した気がします - 先輩社員と話す機会が多いプログラムで、とてもためになった - とても親切にしてくださった。社会に対する視野が広がった。 - いろいろな知識や経験を身に付けられたのでとても良かった - 働くことに対してのイメージを持てた
理解	<ul style="list-style-type: none"> - はたらくことを具体的にイメージすることができた - 現場で実習させていただいてとても貴重な体験になりました。この実習を通して、電気施工管理の仕事がよくわかり、社会人はコミュニケーション能力がとても大切であることを実感させられました。ありがとうございました。
改善	<ul style="list-style-type: none"> - もっと大学生と交流を持ちたかった - 受け入れ受け入れ決定の報告をもっと早くしてほしい - 報告書を作成する時間がもう少し欲しかった
他	<ul style="list-style-type: none"> - 進学に傾いていた自分の意思が就職に傾いた - 社員の方の対応が暖かく、社内の雰囲気や社員の方の仕事に対する姿勢が非常に良いと感じた。是非このような会社に就職したいと思った。 - 高専卒業生は開発のところで働いている人が多かった。 - 高専生欲してない感じだった - 夜勤はしたくないと思った。

8. 3年生対象のインターンシップ説明会

受入機関・参加学生から提出されたアンケートを集計した後、次年度インターンシップに参加する現3年生を対象として、下記の要領でインターンシップ説明会を行った。インターンシップの公募は4月早々に始まるので、アンケート結果等も参考に、春休み中に実習先を検討するよう学生に指導した。

なお、COC+によるインターンシップマッチング会は今年度は12月に実施されるので、そのこともこの説明会で学生に伝えることとした。

令和元年度、3年生向けインターンシップ説明会

1) 日時：令和元年11月20日(水) 14:45～16:15

2) 場所：視聴覚教室

3) 内容：

14:50 本日のスケジュール (COOP 教育委員長)

14:53 緒注意 (主事)

14:58 概要説明 (COOP 教育委員長)

15:10 実施報告 (2名の4年生から体験談)

15:55 インターンシップマッチング会について (COC+)

16:10 質疑応答

4) 配布物：なし

5) 補足 この年度の12月には、COC+によってインターンシップマッチング会が実施された。COC+単独の説明会はこの年度には実施されなかった。

上記日程のうち、COOP 教育委員長からの説明の概要は以下の通りである：

(インターンシップとは何か、企業アンケート集計結果、企業からの指摘、学生アンケート集計結果、インターンシップ関連情報収集方法 (Moodle の活用)、受入機関より学生に伝えたいこと、今後のスケジュール。)

9. インターンシップの総括

インターンシップは選択科目であるが、そこで貴重な体験ができることが学生にきちんと伝わるようになり、学生の半分以上が行くことが定着してきた。そして、学生の感想からも分かるように、良い体験をした学生が大半であることが伺える。なお、就職希望だった学生が、インターンシップ実施後に進学希望に変更したりするのも、体験して初めて知ることができる重大な成果である。今後もますます有意義なインターンシップであるようにしたい。

インターンシップを受け入れる企業数も増え続けている。その理由の一つは、採用につなげたいということである。特に COC+は、もともとが静岡県内に就職する学生を増やしたいというところから始まっている。ただし、注意しなくてはならないことは、インターンシップと就職はイコールではないということである。文部科学省は「インターンシップが就職・採用活動そのものとして行われることのないようにする取扱いは維持」としており、本校もその方針に従っている。

最後に、本校のインターンシップは、下記に示す教職員の多大なる尽力により実施されてきました。ここに感謝の意を表します。

キャリア支援センター長	高野 明夫
機械工学科 4 年担任	前田 篤志
電気電子工学科 4 年担任	野毛 悟
電子制御工学科 4 年担任	小谷 進
制御情報工学科 4 年担任	長谷 賢治
物質工学科 4 年担任	三留 規誉
専攻科長	稲津 晃司
キャリア教育委員会委員長	鄭 萬溶
3 年生学級担任学年代表	眞鍋 保彦
学生係長	加藤 大典
学生係	佐藤 美紀
COOP 教育委員長	望月 孔二

令和元年 11 月
 沼津工業高等専門学校 電気電子工学科
 COOP 教育委員会 委員長
 望月 孔二

付録 1. インターンシップ説明会（インターンシップマッチング会）について

文部科学省が地域の活性化のために、平成 25 年度より「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 COC+」を開始した。そして静岡大学は平成 27 年度、「静大発“ふじのくに”創生プラン」と題した人材育成事業を起案し、採択された。

沼津高専はその事業に参画する一機関として、その専任スタッフとして事業推進コーディネータおよび補佐要員を新たに雇い、その活動を進めている。

COC+ が行っている学生支援は、平成 28 年度を初年度とし、令和元年度（平成 31 年度）を最終年度とする、3 年次全学生を対象とした「インターンシップマッチング会」である。

インターンシップマッチング会は、学生に好評であり、新年度も実施すべきであると考えられているが、COC+は今年度までであり、同じ体制は続けられない。

現時点（令和元年 11 月）では決まっていることはなく、今語れることは、「来年度も実施」という方向で学内で議論しているということだけである。

付録 2. 平成 31 年度（令和元年度）インターンシップスケジュール（予定）

4月

4年新担任教員との新年度インターンシップ事前打合せ，担当引継ぎ
インターンシップ募集案内掲載開始（学内 Web）
学科毎のインターンシップガイダンス
行き先希望調査

5～6月

担任教員による企業への交渉
必要書類（履歴書含む）作成・企業への応募

7月

事前レポート作成
インターンシップ事前研修会（全体・クラス毎）

7～8月

インターンシップ実施（7月中旬～8月末が夏期休業）
教員による視察

9月～10月

受入機関からの評価
参加学生のインターンシップ報告書提出・報告会（学科毎）
参加学生に対するアンケート調査
受入機関への礼状送付・アンケート調査

1月

3年生対象インターンシップ説明会（概要・データ紹介・反省・注意等）

2月

インターンシップ報告書作成・受入機関への通知
担任教員によるインターンシップの評価

3月

単位認定

付録 3. 学外実習生学生心得

学外実習（以下「実習」という）は企業等において実際の工業技術を体得するため、専門課程の一環として履修するものであり、実習に従事する学生はこの心得を守らなければならない。

1 学生は、この心得のほか必要な事項、細目について、実習開始前に学外実習指導教員の指示を受けること

2 学生は、実習先の監督者の指導を受けるとともに、次に掲げる事項を守り、実習の目的を十分に達成するよう心がけること。

A) 規律

ア 出退勤時間、休憩時間を守ることを、無断で欠勤、遅刻、早退等は絶対にしないこと。

イ 社内規律、作業内規等の規則に従うこと。

ウ 学生として良識ある行動をとり、礼節を守ること。

エ その他社内秩序を乱さないよう留意すること。

B) 社内機密保持

ア 無断で製品、図面等社内の写真撮影をしないこと。

イ 無断で指定以外の場所に立ち入らないこと。

ウ 許可なく、製品、研究、文献、ソフトウェア、図面、談話等を社外に漏らさないこと。

エ 教員へ提出する報告には、企業秘密事項を含めないこと。

C) 安全保持

ア 監督者の指示・説明に従い、独断で作業をしないこと。

イ 実習先の作業心得、安全心得をよく守り、細心の注意を払い、事故を起こさないよう心がけること。

ウ 万一、事故又は異常事態が生じた場合は、直ちに、監督者に報告するとともに、すみやかに指導教員に連絡すること。

D) 作業態度

ア 監督者の指示に従い、独自の行動はとらないこと。

イ 実習先の社員等に対しては、努めて謙虚な態度で接すること。

ウ 必要以外の設備等には手を触れたりしないこと。

エ 実習期間中は、毎日、作業の終了を監督者に報告すること。

E) 用具の使用

ア 無断で社内の用具を使用しないこと。また、使用後は必ず元の場所に返しておくこと。

イ 許可なく物品の搬入・搬出をしないこと。

3 学生は、実習期間中、常に指導教員と連絡を保つとともに、実習内容の変更があった場合は、速やかに指導教員に報告すること。

4 学生は、実習終了後、実習報告書を実習先に提出するとともに、すみやかに経過を指導教員に報告すること。またその際、企業秘密事項が含まれていないかを確認すること。

学生生活の手引き（平成 31 年度 p.50）より抜粋

改定の記録

令和 1 年 11 月 20 日初版